平成２６年度 武蔵野市立第一中学校　学校評価報告書

校　長　　松　岡　　敬　明

評価→Ａ：十分に達成されている　Ｂ：概ね達成されている　Ｃ：達成がやや不十分である　Ｄ：達成が不十分である

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学習指導	確かな学力の育成 基礎基本の定着	・生徒の理解の程度に応じた指導を工夫し、知識・技能の確実な定着と、思考力・判断力・表現力の育成に取り組んだ。また、全ての学習活動において基礎基本の定着を重視し授業改善を図ってきた。 ・数学・英語の少人数指導(習熟度別含)学習支援教室、ＴＴ、ＴＡによる個別指導で基礎基本の定着を図った。	Ａ	・今後も１単位時間の授業の目標と評価を明確にし、習熟度別授業を取り入れながら基礎基本の定着を図る。特に、数学・英語は少人数指導を生かし、個に応じた指導計画による習熟度別授業を実施する。またＴＴ、ＴＡを活用した個別指導を一層充実させる。 ・ 学習支援教室を活用した習熟の低い生徒への学習指導をさらに充実させる。	・学校評価の集計結果から、教員が確かな学力を育成するために基礎基本の定着に努め、工夫改善を図りながら学習指導に取り組んでいることがわかる。全国や東京都の学力調査からも、一中の学力の高さが確認できた。 ・道徳の授業に関しては、生徒の成長過程を踏まえた教材等をさらにし、道徳的な考え方や実践力を育てる指導を期待する。 ・ポスターセッションへの取組を通し、生徒の言語活動の充実を目指していることが伺える。コミュニケーション能力は、今後ますます重要となるため、継続した取組を期待する。
	言語活動の充実	外部講師を招聘し、プレゼンテーション及びポスターセッションの工夫や、全教員の言語活動の充実に向けた研究授業等を実践してきているが、保護者の理解はまだ十分ではない。	Ｂ	都の言語能力向上拠点校として、読書活動や総合的な学習の時間の工夫改善とともに、言語活動の充実に向けた授業改善を図る。また、こうした活動を保護者・地域への情報発信に努める。	
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 **○個々の生徒の興味や関心に応じた幅広い教育活動を展開し、一層の基礎基本の定着を図る。** **○計画的な道徳の時間の実践とともに、教育活動全般を通じて道徳的実践力の向上を図る。　　○言語能力向上の取組を一層充実させる。**				
生活指導・進路指導・特別活動	基本的生活習慣の確立 人権尊重の精神の育成	・礼節を重んじる態度を育て規範意識の向上を図るために、全校体制での対応を行ってきている。基本的生活習慣に関する学校評価アンケートの結果は、生徒・保護者の上位評価が80%以上であった。 ・人権尊重の啓発を含め、本校のいじめ防止基本方針に基づき校内体制を整え関係諸機関と連携し対応してきた。一層の生徒の悩み等への相談体制の充実が求められる。	Ｂ	・ 規範意識のさらなる向上を図る。特に、礼節においては、あらゆる場面で、自分からあいさつができる指導を継続して行う。 ・ 特別支援教育コーディネーター、ＳＣ、市派遣相談員を中心とした教育相談体制を活性化し、個に応じた教育相談と支援を充実させる。特別支援が必要な生徒へは、保護者も含め組織的に積極的な対応を進める。また、いじめに対する早期発見・早期対応を組織的に行う。	・礼儀のあり、挨拶やお願いしたことを気持ちよく受け入れてくれる生徒が多い。生活指導については、落ち着きが定着してきている。今後もいじめへの対策等の継続した指導を期待する。 ・進路指導については、保護者の進学指導への期待が高い。今後も、全学年対象の進路説明会等を実施し、確かな情報の提供をお願いしたい。 ・地域との連携を意識した防災教育を、引き続き期待する。
	進路指導の充実	キャリア教育への上位評価は、昨年度と比べ生徒が＋10ポイントで74%、保護者が＋2ポイントで84%であるが、今年度も進路指導＝進学指導ととらえている傾向が強く進路指導の課題である。進学指導の情報提供は全学年対象に実施した。	Ｂ	年度当初の学年集会や保護者会で、進路指導＝進学指導ではないことを進路指導計画に基づいて明確に伝えるとともに、キャリア教育に関する啓発活動を実施する。進学指導の情報提供を、今後も全学年対象に実施していく。	
	防災教育の充実	防災宿泊訓練を第２学年で実施し、地域の防災会の参加も含めプログラムの充実に努めてきた。また市の防災教育拠点校としても、関係諸機関の支援を得ながら避難訓練等の充実に努めてきた。	Ａ	地域で貢献できる人材の育成という観点も含め、自助・共助の実践力の育成に重点を置き防災教育の一層の充実を図る。	
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 **○進路指導と進学指導の両面の説明や指導に取り組み、生徒一人一人の個性や適性、能力に応じたキャリア教育の実践に努める。** **○生活指導に対しては生活指導部を中心に組織的な対応を行い、生徒の自主性・主体性を育てる指導の工夫に努めるとともに規範意識の向上を図る。**				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
地域連携	地域から信頼される学校づくりの推進	学校公開と学年行事の公開を年５回土曜日に行った。学校公開ではリーフレットを作成し、公開のねらいを明確にすることで、保護者や地域の学校に対する理解を深め信頼される学校づくりに努めてきた。１１月の学校公開週間の来校者数が少ないことが課題である。	A	・次年度も年５回の学校公開日を定着させ、教育活動の信頼度を高める。次年度は公開の内容を再検討し、特に「ICT機器の活用」を積極的に取り入れた授業を行う。 ・学区の小学校等に案内を送付し、年間を通し地域に開かれた学校づくりを推進する。	・学校評価の集計結果から地域連携への評価が高い。これは一中生が地域の行事などに積極的に協力して活動し、地域貢献への取組が充実していることを示している。 ・ジャンボリーへの生徒や教員の参加・協力が、地域で高い評価を得ている。地域の中での小中連携事業として充実した取組である。 ・地域と連携した防災意識がより必要になってくる。生徒の地域の一員としての防災教育を、今後も期待する。
	小中連携の推進	・ 一中を会場に、教員対象の小中連絡協議会を２回開催した。今年度は「中一ギャップを解消するための小中連携の在り方」をテーマに各校の学習や生活状況の実態を分科会ごとに報告し連携を深めた。 ・小学生対象の体験授業と体験部活動を行い、一中の教育活動への関心と理解を高めることができた。	B	・小中の情報共有と、義務教育９年間を通した教育活動のための方策が協議され、異校種間での連携した教育活動の重要性を再確認した。今後も小中連絡協議会を定期的に開催し内容の充実を図る。 ・体験授業の質の向上を図り、体験する児童数を更に増やす努力と工夫をする。	
	地域貢献	青少協やコミセンとの連携を密にし、各地域のまつりや防災訓練に参加した。また、一中フェスタ等での生徒実行委員会と地域とが連携した事業を通して、地域との関わりが深化した。	A	・今後も青少協やコミセンとの連携を図り、ＰＴＡの協力を得ながら、多くの生徒が地域に貢献できる人材育成に努める。 ・市民性を高める地域連携行事として、一中フェスタの内容をさらに充実させるための工夫と改善を行う。	
	地域とともに歩む学校	今年度も書写や進路学習、総合的な学習の時間等に、地域の人材や社会福祉協議会などの公共機関等の活用により、授業の活性化を図った。	A	・今後も地域の教育力を活用し、地域が学校の教育活動に関わりながら、地域とともに生徒を育てる学習環境づくりに努める。 ・人材情報収集のための方法を工夫する。	
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 **〇地域連携への高評価を受けとめ、今後も地域に貢献し、地域の中で活躍する生徒の育成に取り組む。**				
学校運営	教職員の協力体制の充実	校長を中心とした教職員の協力体制に関する学校評価の結果を受けとめ、課題を認識し、主幹教諭や主任教諭を中心とした組織力の向上に努める。	B	諸課題解決のための方策を立て、課題解決に取り組むことを通して、教職員の協力体制を充実させ、組織力のさらなる向上を図る。	・教職員の協力体制は年々向上してきている。一層高めていくことで、諸課題への対応や改善が図られるものと期待する。 ・学校からの情報発信は、行事への取組等の教育活動を理解する上でとても大切なものである。保護者や地域の方は楽しみにしている状況である。
	学校情報の充実	学校ホームページを適宜更新し、情報を提供してきたが、適時性をもって最新情報を提供することが課題である。また、各種たよりで、定期的な情報提供ができた。	A	・今後も、ホームページによる学校情報の発信に努め、教育活動の見える学校づくりに取り組む。 ・各種たより（学校、学年、分掌等）の内容を吟味し、学校情報の充実に努める。	
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 **〇学校経営計画に基づいた教職員の協力体制を一層充実させ、学校組織としての機能の強化を図る。** **〇学校ホームページや各種たよりによる情報発信を積極的に行う。**				